

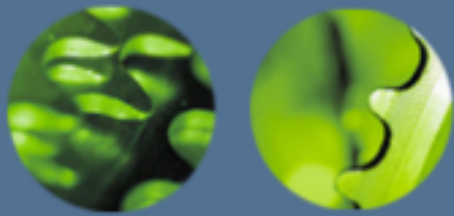


エネルギー供給拠点のパナマ



パナマ共和国政府





なぜパナマ?



米ドル使用
国際金融センター



安定性



地理的な位置



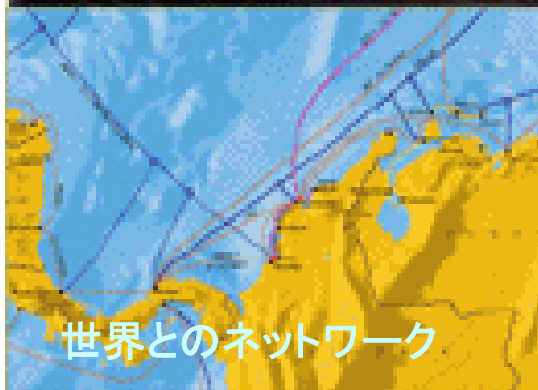
インセンティブ



貿易



ロジスティック・センター



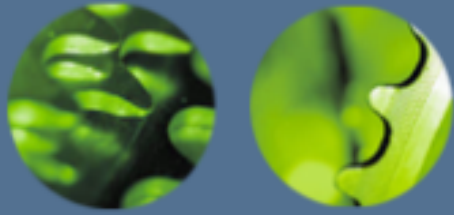
世界とのネットワーク



人材



ビジネス機会



順調な経済発展

- ・ 通貨は米ドル
- ・ アメリカ大陸内で、最低インフレ率
- ・ 国際金融センター
 - 70以上の銀行、総額401億ドルの資金
 - 国際規制に沿った運営
 - 中南米地域で、もっとも安定性のある近代化された金融システム

国内総生産(GDP): US \$ 139.395億
(一人当たり: US\$ 4,318)

国内総生産(GDP)成長率: 6.4% (2005年度)

投資評価: S & P: BB+ ; Moody's: Baa1

5年間平均インフレ率: 1.1%

成長率の見込み: 6.5%

金利: 8.3%



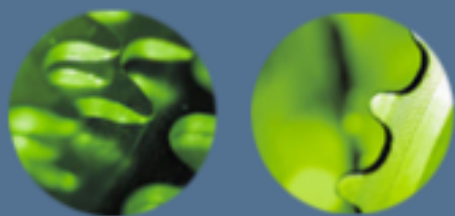
世界とのコネクティビティ



パナマは5つの海底光ファイバーで世界と接続している。

パナマは、120の海上ルートへのアクセスを提供。





世界のロジスティクセンター

トクメン国際空港

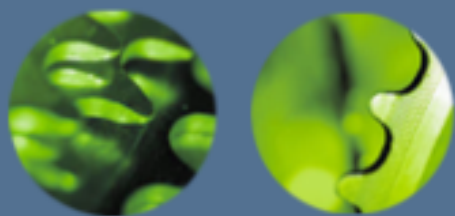
- アメリカ大陸の荷物、旅客を運送するコパ航空会社のハブがあります。
- アメリカ大陸では、最も新しく近代的な旅客機団。
- 現在、US\$7,000万におよぶ空港インフラ近代化計画の実行中です。



両洋間鉄道

- US\$5,000万以上の投資計画がある。
- 毎日、荷物・乗用客を運搬。
- 大西洋側から太平洋側まで、陸上のコンテナ運搬。





信頼性のある商業・貿易



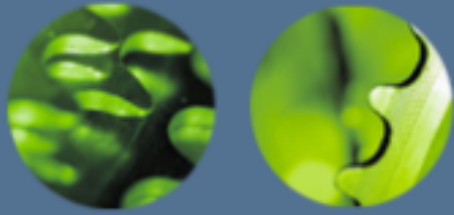
コロン・フリーゾーン

- 面積: 680ヘクタール / 1680 エーカー
- 年間来客数: 25万人
- 企業数(従業員数): 2,159社(1万9千人)
- 年間取り引き額: US\$110億

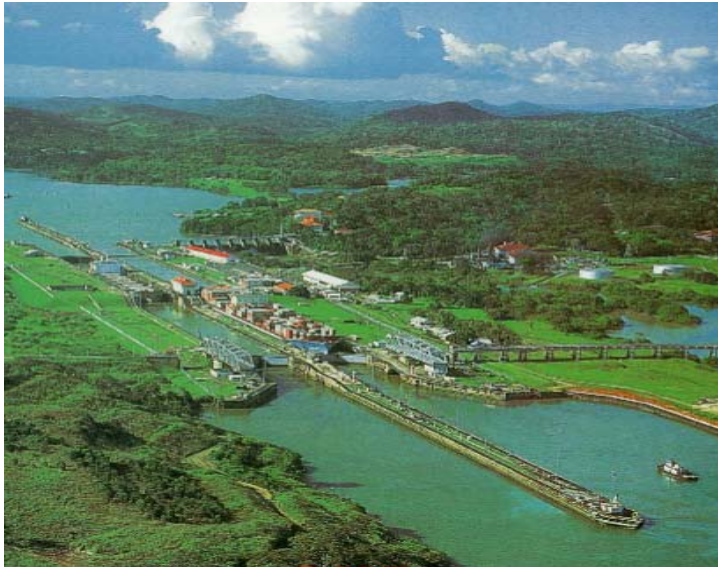
国際金融センター

- 70以上もの銀行、総額401億ドルの資金。

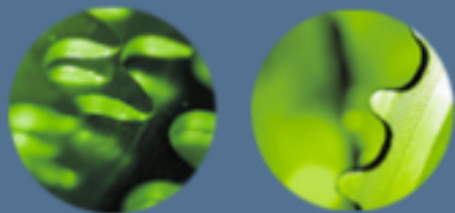




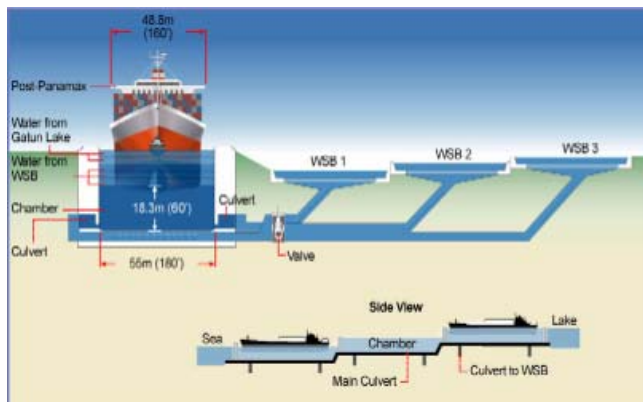
パナマ運河



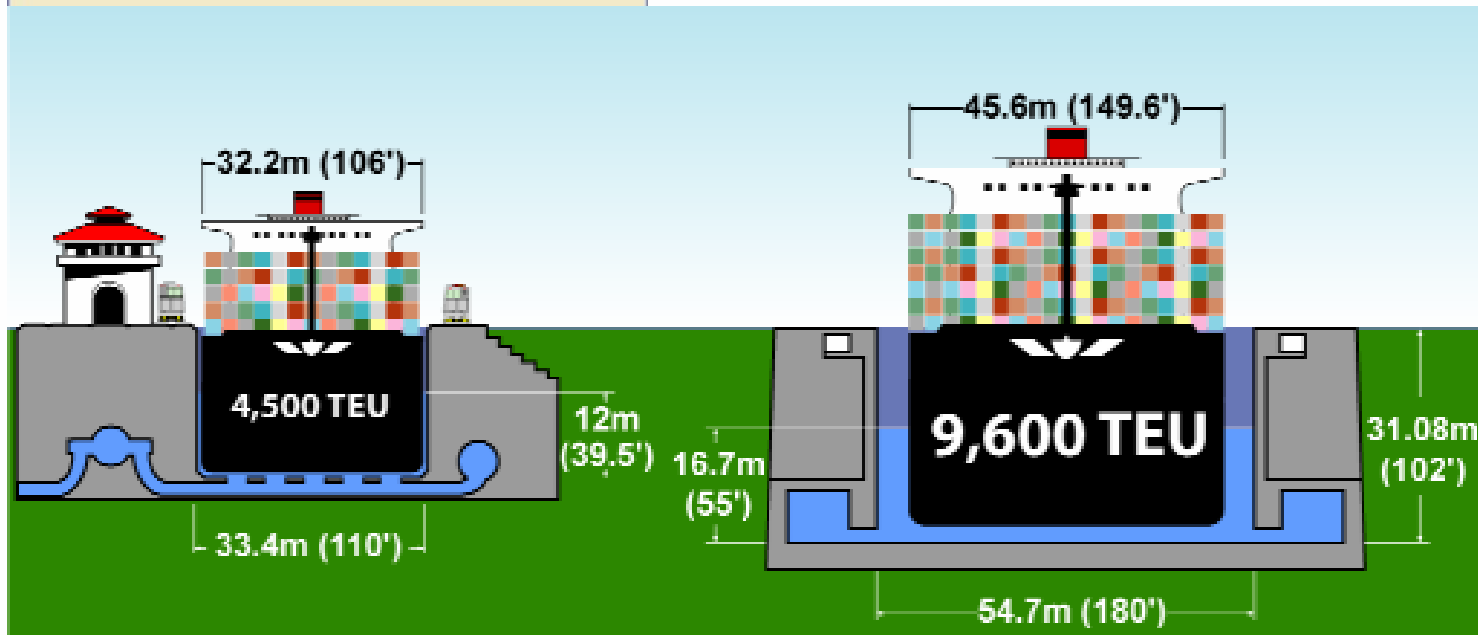
- ・120の海上ルートで80ヶ国と接続している。
- ・年間船舶航行数： 1万4千隻以上
- ・年間総貨物量： 約3億トン

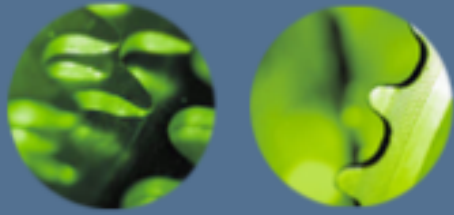


パナマ運河拡張計画



推定総工事費US\$52億をかけるパナマ運河拡張計画により、運河に長期的な競争力を与え、世界のロジスティク・センターとしての地位を確立する。





港湾システム

- インターナショナル・マンサニージョ港 (MIT):
カリブ海にある中南米の最大コンテナ専用埠頭



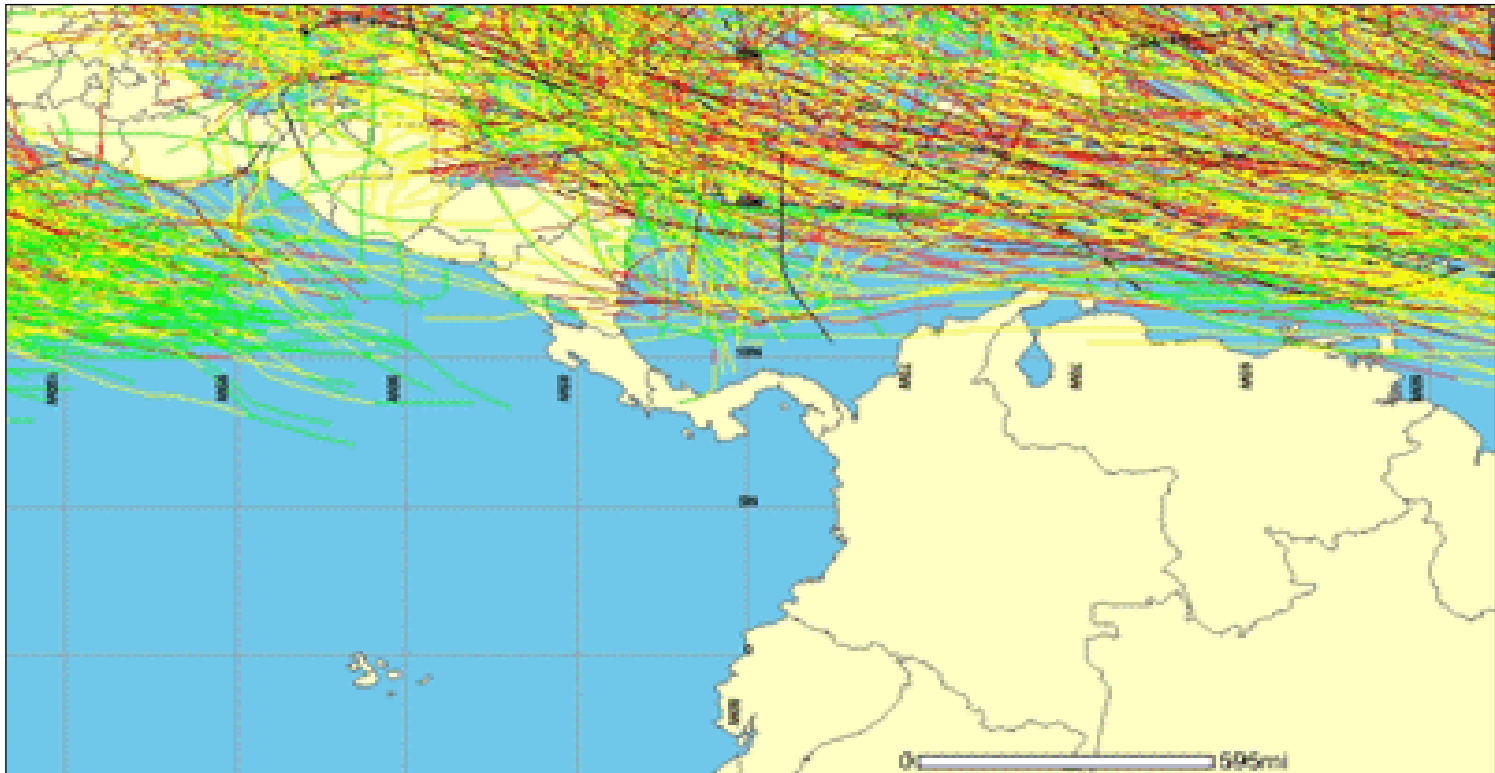
- ハッチンソン・ワンポア社のバルボア・ターミナル:
中南米の太平洋側で最大量の商品輸送を誇る港
- コロン・コンテナ・ターミナル (CCT)
エバーグリーンの子会社
- 港湾システムの年間総貨物量: 275万TEUs

上記の港湾は設備許容量が最大に達しており、更に許容量を倍にするためのインフラ建設計画が遂行中。



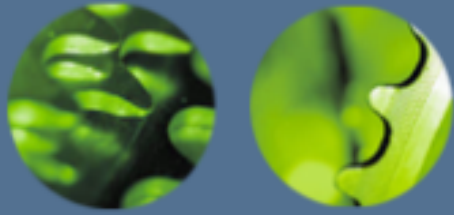
自然災害の少ないパナマ

北米のハリケーンおよび豪雨の気象図



パナマは

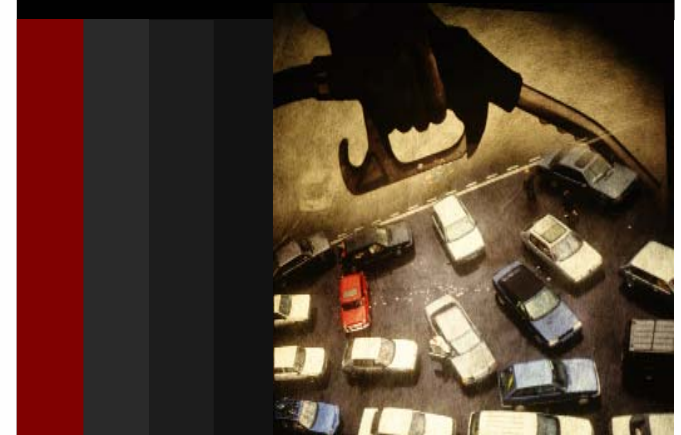
- ハリケーンの恐れなし
- 地震の心配なし
- 活火山なし

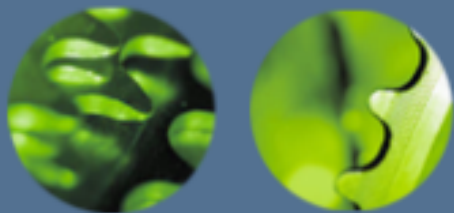


政府側のイニシアティブ

- 2005年8月
初めての国家エネルギー資源政策。
- パナマは中南米地域のエネルギー供給拠点としての計画が提案された。
- その直後、潜在的な処理所を探索し、投資誘致も促進。

石油・天然ガスの代替
エネルギー資源の国家政策





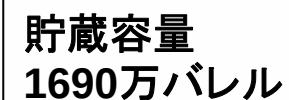
既存設備

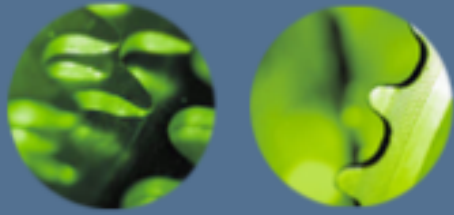
既存パイプライン 131 km

パナマ運河に沿うパイプライン

- わずか75キロで両大洋を結べるパイプラインを建設できるのはパナマのみ



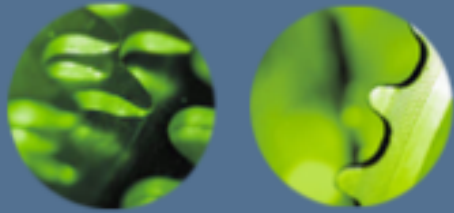




既存設備

機関名	主要商品	貯蔵容量 (単位：100万バレル)	貯蔵容量 (単位：100万ガロン)
民間航空庁	航空機燃料	0.02	0.7
海運庁	燃料	1.6	66.7
	船舶燃料	1.8	74.0
パナマ石油施設	製品	2.9	122.3
	原油	2.9	121.3
石油港湾	液化石油ガス (LPG)	0.04	1.9
パナマ精油所	原油、製品	4.3	179.0
アトランティック・パシフィック	船舶燃料	1.2	50.7
(株) パナマ海運モーダル工業団地 (PIMPSA)	航空機燃料	1.1	47.3
(株) デカル・パナマ	船舶燃料	1.1	46.2
合計		16.9	710.1

上記に加え、数ヵ月後に競売する見込みのAAEEPP(ハーワード)内において
13.5MMglの貯蔵容量がある。



発電における投資機会

取り付け設備

→ 1,507.2 MW

- » 845 MW (56%) 水力電気
- » 662 MW (44%) 地熱

発電力（純）

→ 5,576.6 GWh

- » 2,823 (50%) 水力電気
- » 2,753 (49%) 地熱
- »

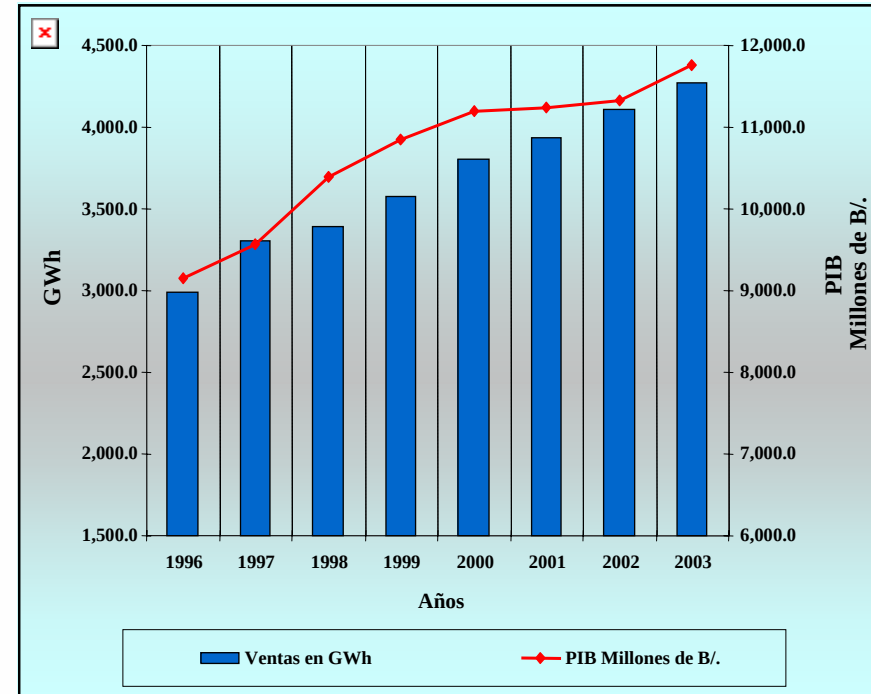
船舶燃料（バンカー）
ディーゼル
海運ディーゼル

最大システム需要 (2004年度) → 924.96 MW

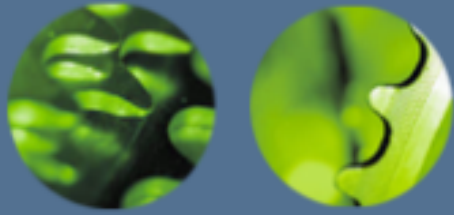
中米への輸出量 → 178.94 GW (3.21%)

国内グリッドは潜在的な処理所と接続されています。

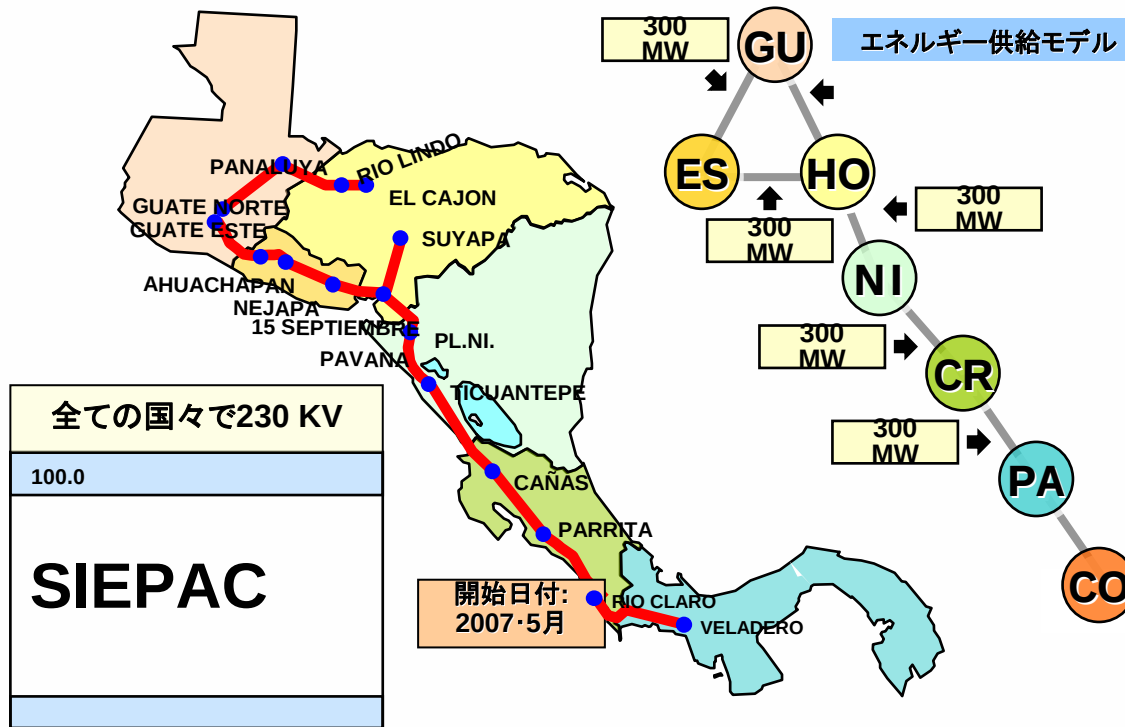
- 2007年には、地域消費需要に答えるには、最低200 MWが必要。
- 又、様々な新メガプロジェクトにおいて、電気供給が不可欠。
 - パナマ運河拡張計画
 - 鉱業計画
 - 港湾インフラ発展



現在に至るまで、エネルギー業は直物市場では
13ct kwです。



発電投資機会

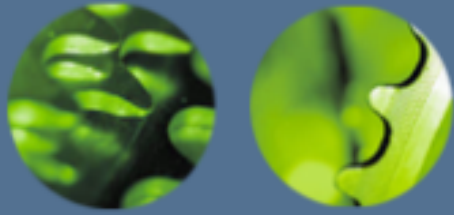


- 中米諸国電気相互連結システム(SIEPAC)を通して、パナマはグアテマラ、ホンジュラス、エルサルバドル、コスタリカ、ニカラグアと繋がっている。
- 2006年6月に、発電統一計画が始まる予定。

電力を5カ国に
輸出する可能性
があります。

発電卸売市場の運営

最大容量300 MW の1830kmの供給ラインがあります。



労働力

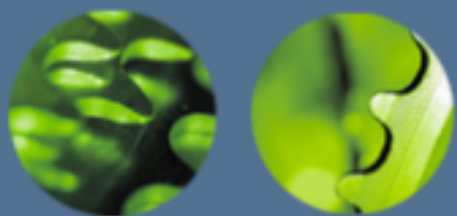
- Chevron Texaco精油所が保有していた既存の労働力がある。
- パナマ政府の職業訓練人材資格庁(INADEH)は、訓練を実施しており、新しい人材には以下のプログラムを提供している。
 - 予備のオペレーション活動
 - 技術サービス、オペレーションおよびプロジェクト
 - 研究所人員
 - IT人員
 - 整備
 - 安全
- プロジェクトのために必要とする専門的な外国人労働力準備を保証できる条件が揃っている。



国内製品需要

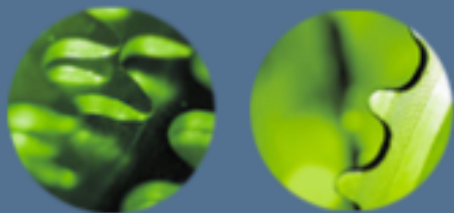
合計	ガロン 621,165,297	バレル 14,789,649
ガソリン 95	52,013,163	1,238,408
ガソリン 91	92,064,989	2,192,023
ガソリン 87	27,171	646
灯油	3,406,900	81,116
軽ディーゼル	202,814,936	4,828,927
マリーン・ディーゼル	44,687,918	1,063,998
船舶燃料 C	114,644,077	2,729,620
低粘度	25,000	595
アスファルト	6,364,934	151,546
飛行機燃料	56,813,044	1,352,691
AVGAS	617,478	14,701
液化石油ガス (LPG)	47,685,687	1,135,373

- 1,400万バレルもの国内需要
- 約3,000万バレルの船舶燃料(バンカー)の市場
- 年間石油製品平均需要成長率
(2000-2005): 6.5%



中米における石油需要

- 現在の中米地域内の需要： 3.7億バレル
 - 2020年までに需要は倍増と予測。
 - 需要の $\frac{1}{4}$ しか地域内で処理できない状況
- 処理容量を増加させない限り、輸入に頼らざるを得ず、益々輸入量が増加してしまう。パナマも含む中米地域は、アメリカの基準に沿いながら、品質の標準化に力を入れている。

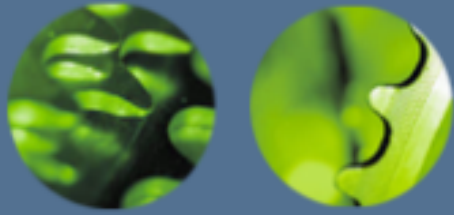


地理的な好位置



パナマ	—	エクアドル	2日間
パナマ	—	ペルー	3日間
パナマ	—	チリ	6日間
パナマ	—	ベネズエラ	48時間
パナマ	—	コロンビア(カルタヘナ)	30時間
パナマ	—	グアテマラ(Quetzal)	2.5日間
パナマ	—	メキシコ(マンサニージョ)	4日間
パナマ	—	ジャマイカ	2日間
パナマ	—	アメリカ	5日間
パナマ	—	ブラジル	15日間

両大洋の中南米地域市場
へのアクセス

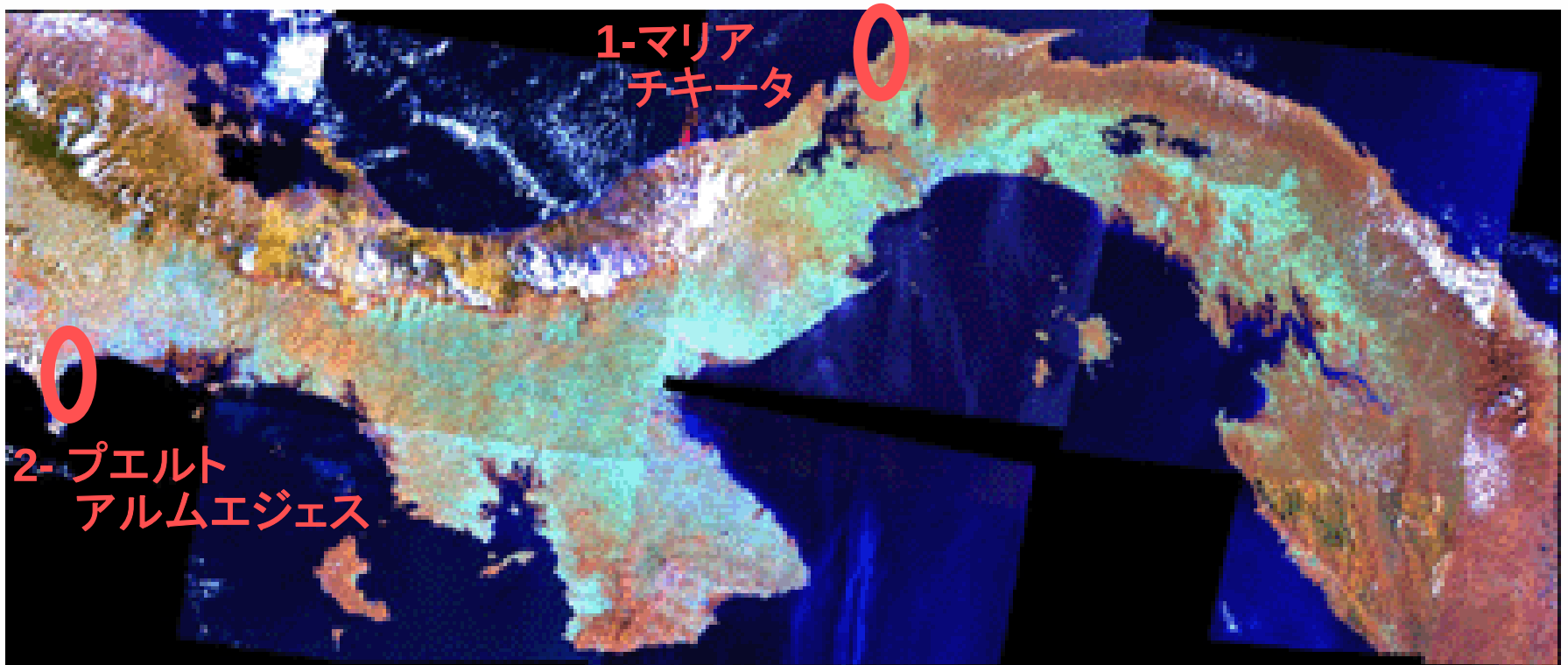


法律上の枠組み

- ・ 法律8条、2003年の法令No. 36に基づき、精油所プロジェクトに対するインセンティブが定められている。
 - 石油フリーゾーン宣言
 - ・ 可能なオペレーション：導入、倉庫保管、精油、処理、輸送、輸出、再輸出、または原油および石油関連製品の国内市場での販売。
 - 全ての国際市場向けの原油および石油関連製品は免税の対象となる。



石油精油所プロジェクト



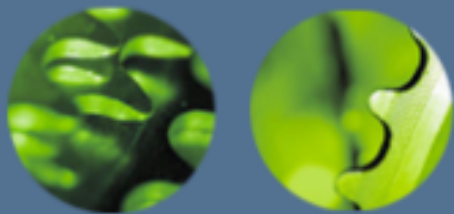
1-マリア
チキータ

0

0
2- プエルト
アルムエジェス

1- マリア・チキータ（大西洋側）

2- プエルト・アルムエジェス（太平洋側）



大西洋側のプロジェクト

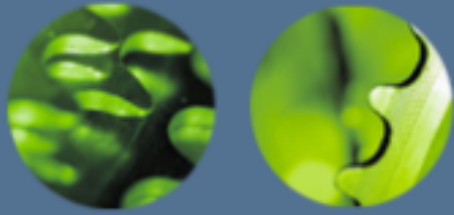


ビジネス・モデル:

製造団地

- 海上インフラ(港湾、パイプライン、浮標)
- 石油貯蔵地区
- 現場および本社事務所
- 倉庫および機械組み立て工場

- 集中的公共事業: -水道,
- 発電, -水素, -水蒸気,
- 燃料ガス -ごみ処理
- 訓練およびアメニティ施設
- ロジスティックおよび運送

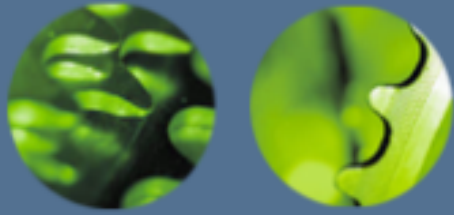


大西洋側のプロジェクト



石油精油所
液化天然ガス(LNG)再ガス化工場
石油化学製品、科学製品
エチレン、プロピレン処理所
ポリマー
アンモニア
防波堤、パイプライン、貯蔵施設
公共事業

産業団地



大西洋側のプロジェクト

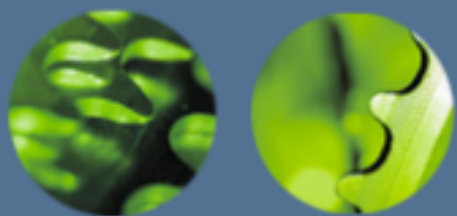
✓ 成功実績モデルに沿っています。



ジュロン・パークのコンセプトで、産業団地を建設予定。

- 精油可能容量：（一日当たり）13億バレル
- アジア太平洋圏向けの燃料および化学物質の流通センター
- 70社以上が総額220億米ドルの投資
- Shell, Chevron, BASF, Exxon Mobil, Cabot, DuPont等

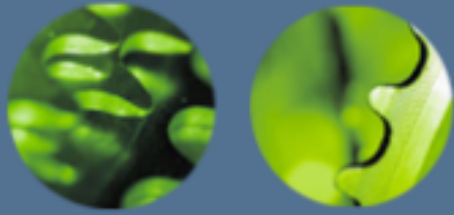
ジュロン・パークの開発業者もパナマの大西洋側のエネルギープロジェクトに参加している。



プエルト・アルムエジェス 計画(太平洋側)

- 予定地の確保済み: 政府所有の4,034ヘクタールの土地が2006年可決の法令29号により、エネルギー関連計画専用地となる。
- 原油の提供: パナマで精油所が建設されれば、メキシコは2.3億バレルの原油を提供すると約束をした。
- 「*Fast Track Process*」を適用し、
精油所運営許可手続きをスムーズにする。





プエルト・アルムエジェス 計画(太平洋側)

• 予備環境調査 (KBC):

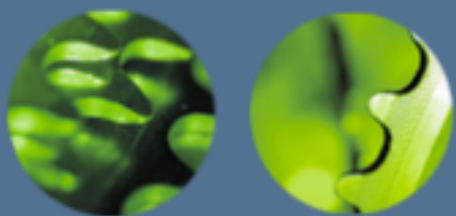
1. 予定地の特徴:

- 気候、気象: 湿度の高い熱帯気候。
- 表面的な土壌汚染: 特になし。
- 源水: グアナバノ川、メジサ溪流。
- 大気状況: 良好、周辺から文句なし。
- 雑音、振動: 低レベル、静かな場所。
- 地震危険度: 近年なし。
- 火災危険度: 低い。周辺には、森林密集地はなし。
- 洪水危険度: 今日までは特になし。

予備調査の結果によると、国際基準に基づき、プロジェクト実行を不可能にする要因はない。

2. 生物学上の特徴:

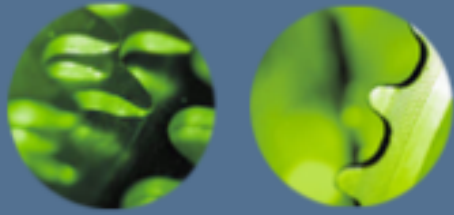
- 生物多様性に重要な土地や海などの生態系がない。
- 保護された沿岸地区はない。
- 泥沼または珊瑚はない。
- 国際「e.g. 国際自然保護連合 (IUCN)」、国内の保護法で定められている絶滅の危険のある動植物の存在なし。



プエルト・アルムエジェス 計画(太平洋側)

- 既存の設備：パイプライン
 - 長さ131キロの地域内での唯一のパイプライン
 - 処理可能容量(一日当たり): 8億バレル
 - 貯蔵: 両大洋側それぞれに290万バレル
 - VLCC(超大型油送船)に対応する投錨地

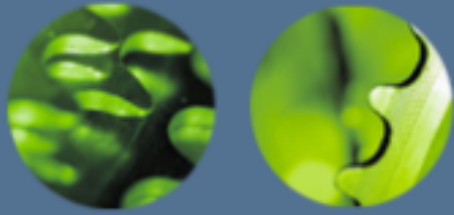




関連投資機会

- ・ **液化天然ガス(LNG)の 再ガス化**
 - － トリニダード・トバゴ、カタール等から液化天然ガス(LNG) を運んでくる可能性
 - ・ 発電
 - ・ 住宅地の利用
 - ・ 水素生産
- ・ **エチレン・プロピレン**
 - 産業利用の国内需要
 - － エチレン： ポリエチレン、PVC、ポリスチレン、アルファ・オレフィン、脂肪族アルコール
エチル・ベンゼン
 - － プロピレン： ポリプロピレン、アクリロニトリル、酸化プロピレン、クメン、フェノール等
- ・ **アンモニア**

肥料、爆発物、家畜の飼料および他の化学薬品の製造に使う基礎的な原料の国内および地域需要。



政府によるサポート

- パナマ政府は、国内での新しい精油所を設立するイニシアティブにおいて、積極的なサポートをしている。
 - 魅力的な投資機会は以下の分野。
 - 新しい発電源の開発
 - インフラ開発
 - 雇用増加
 - 化学薬品と石油化学製品ビジネスのような関連ビジネスの発展
 - 国内産業に対してプラス効果
 - 国内ガス源発掘の可能性
 - 住宅地、産業、自動車への利用